

市民が企画・立案・制作・投影したプラネタリウム番組 『三蔵法師の見た星空』の報告

國司 眞・亀岡千佳子*

The report of a planetarium program "A starlit sky Sanzouhoushi saw"
that the resident who participated in a class for star and universe plan and produce.

Makoto KUNISHI・Chikako KAMEOKA*

1 川崎市青少年科学館の使命とプラネタリウム

川崎市青少年科学館は、宇宙を含む川崎の身近な自然について学ぶことから、生涯学習を生涯活動へ結びつけ、自己実現する市民を育成し地域発展の一翼を担うことを使命としている。

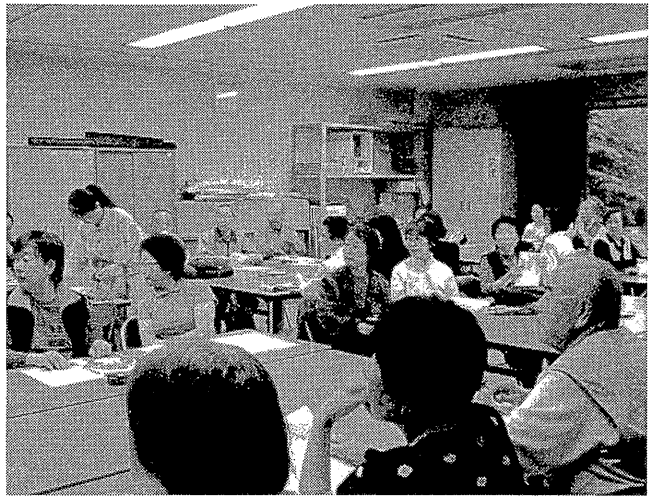
青少年科学館のプラネタリウムは、職員が番組を自主制作し投影解説する方法で運営してきた。本報告は今までの成果を踏まえ、市民の皆さんが生涯活動の場としてプラネタリウムを活用し、その主体的な参画が地域に根ざした科学館活動となることを意識して企画された。

2 市民館と科学館の連携

2001年1月～3月、多摩市民館主催の天文講座で科学館職員が講師となり天文についての学習や天体観察を実施した。また、当館の協議会委員である河原郁夫氏が講師となり、麻生市民館でも天文講座を実施した。2002年4月には講座参加者有志が市民館へ利用団体登録し「宇宙・天文を学ぶ会」が任意団体として発足した。これは講座修了後の受講者が生涯学習から生涯活動へ発展できるよう成果発表の場を確保するため、市民館館長から科学館館長へ施設利用願を提出していただき、毎月第3水曜日に科学館で定例会を開催することになった。さらに科学館・市民館職員がサポートして八ヶ岳星空合宿や野辺山電波観測所見学も実施できた。

3 見るから使うプラネタリウムへ

2003年4月より科学館主催の「プラネタリウム宇宙教室」を毎月1回開催。40名の参加者は「科学館だより」等で公募した。「天体・宇宙を学ぶ会」のメンバーも加わり、プラネタリウム番組制作と天体観測をメインに、主体的で参画性の強い教室を目指すこととなった。



ディスカッションの様子

4 プラネタリウム宇宙教室の活動

- 4月：参加者自己紹介、
：プラネタリウム番組制作や活動予定検討
：プラネタリウム投影機の構造学習
- 5月：プラネタリウム番組テーマ案作成と選定
「万葉集で愉しむ星空」
「四大文明と古代人の宇宙観」
「三蔵法師の見た星空」
「ホルストの惑星とその時代」
「超新星爆発とブラックホール」

以上の提案の中から「三蔵法師の見た星空」を第1回作品に決定し以下の制作チームを結成

- ・シナリオ検討・写真資料収集チーム
 - ・原画・タイトル作成チーム
 - ・BGM演奏チーム
 - ・ナレーション・解説チーム
- 6月：玄奘三蔵の旅について学習会
：プラネタリウムで旅に沿った星空の再現
：制作グループ別の作業
- 7月：シナリオ企画書の検討
：原画・タイトルの制作方法検討
：BGM演奏方法及び練習
- 8月：パーミアン・火焰山・長安・砲火台等の写真

* 青少年科学館

資料収集

- : 投影機の歳差・年周・緯度変化確認
- 9月: バーミアン遺跡と新発見の仏典解説
- : 子どもの来館者に対する配慮を検討
- 10月: シナリオの確認・追加
- : 孫悟空スライド原画追加制作
- : BGM選曲
- : マイク使い方練習
- : 演台調光・光漏れ確認
- 11月: リハーサル(5日・17日・24日に実施)

5 公開当日(2003年11月30日17時開始 特別投影)

最終打ち合わせ、スライド等セッティング、パンフレット・アンケート制作、受け付け設置とあわただしく準備をする。当日は悪天候にもかかわらず82名もの入館者が訪れ、じっくり投影を見ていただいた。

6 アンケート集計結果

① 全体の印象

面白かった 83% : ふつう 15% : 面白くなかった 2%

② BGMについて

良かった 89% : ふつう 11% : 良くなかった 0%

③ 解説について

良かった 72% : ふつう 26% : 良くなかった 2%

④ 次回作品について

興味がある 82% : ふつう 18% : 興味がない 0%

⑤ 入館者の感想及びコメント

- ・南十字星が昔、日本でも見ることができたとは驚きでした。絵もすばらしかった。
- ・リコーダーの生演奏が手作りの暖かみを感じた。
- ・中国が舞台ということもあり、漢語の解説が多く、所々に字幕があった方が良い。
- ・生涯学習の手本だと思った。学術的な知識が盛り込まれ素晴らしい労作でした。
- ・キャラクターの絵が可愛かった。
- ・普通のプラネタリウムでは聞けない話で面白かった。
- ・北極星の変化が興味深かった。
- ・三蔵法師を掘り下げ「西遊記」と「西域記」を検討した点が良かった。
- ・プラネタリウム番組を自分達で作ら上げ、仲間と分かち合い、地域で発表する試みは素晴らしいと思う。
- ・もう少し星座のことを説明してほしい。
- ・ちょっとテンポが速くついていけなかった部分がある。

7 今後の課題

メンバー及び役割分担の固定化、川崎市域に活動限定、科学館職員のサポートのあり方等が今後の課題となる。そこで毎年新メンバーを募集し番組毎に制作チームを再編成すること。科学館職員はコーディネーター役に徹し、

各地のプラネタリウム施設と連携し、市民制作番組の相互交流促進を行い、今後の番組制作に反映したい。



投影終了後の記念写真